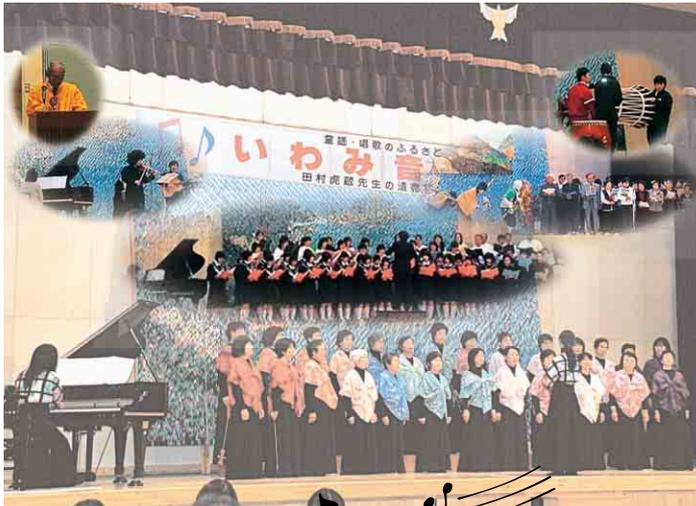


## いわみ音楽祭



11月23日(日)、新しくなった岩美中学校体育館で岩美町出身の偉大な作曲家である田村虎蔵氏を顕彰するため、町内の音楽団体が主催するいわみ音楽祭が開催されました。今年は、馬場集落の方たちによる田村虎蔵氏の紹介コーナーもあり、私たちの知らない虎蔵氏の歴史を知ることができました。琴、ハンドベル、合唱、音楽劇など12団体の出演者がステージを楽しく盛り上げ、裏方では岩美中学校生徒によるボランティアと、町内の企業・団体から協賛金をいただき今まで以上に素晴らしい音楽祭となりました。

 やすゆき  
 岩美西小学校2年 小谷育至君  
 文部科学大臣奨励賞受賞


ろまでしずついでいくところを描きました。家族もすごいとほめてくれました。」と受賞の喜

MOA美術館主催の「第20回全国児童画作品展の絵画部門」で岩美西小学校2年小谷育至君が文部科学大臣奨励賞を受賞されました。小谷君の作品は、日本をはじめ十四カ国の小学校八千六十校から約三十万点応募の中、各学年の優秀な作品一点に選ばれたものです。

小谷君は「うれしいです。たくさんの方たちに声をかけてもだちになりたいなあといいながら描きました。くらげの足につかまって仲良く海の深いところまでしずついでいくところを描きました。家族もすごいとほめてくれました。」と受賞の喜

びを語っていました。

小谷君は学校No.1の元気者で朝も大きな声であいさつをし、いつも友達に囲まれているようです。この絵からはそんな小谷君の人柄や生活がにじみ出ていて本当に楽しい作品です。表彰式は2月に静岡県MOA美術館で行われる予定。おめでとうございます。



『くらげといっしょに海の中をぼうけんだ』

 命のバトンを引き継ぐために力を振り絞る姿に感動  
そじょう

## 岩美南小学校3年生サケの遡上見学

の小田川でサケの遡上を見学しました。

5年前から「小田川・荒金川に魚を蘇らせる会」が主催して春にサケの稚魚の放流を行っている成果がみられ、4匹(2ペア)のサケを確認しました。子ども達はサケを見つけると「おった、おった。」「あれが背びれだ。」と口々に叫び大喜び。

しかし、4年ぶりにふるさとで産卵を終えたメスは産んだ卵を敵から守るために、しつぽを使って石や泥をかぶせるので、体が大変傷つき白くなっていました。次代に命のバトンを引き継ぐため、自分の体を犠牲にして力を振り絞りながら生きる姿に子どもたちは言葉にできない何かを感じたようでした。

鉱毒で一時は魚がすめなかつた小田川も、小田川・荒金川に魚を蘇らせる会」の皆さんの活動でサケが産卵できるすばらしい川になりました。このような自然を私達はいつまでも大切に、次の世代まで引き継いでいきたいものです。

岩美南小学校では、総合的な学習として『地域の方々の活動のすばらしさを感じて一緒に参加させていただくこと』で地域を大切にすることを育てています。



11月27日(木)  
 「小田川・荒金川に魚を蘇らせる会」の安田弘文さんと宮本晶夫さんに説明をしていただきながら、岩美南小学校3年生が、岩常付近